

木祖村議会だより

特集号



道しるへ

住民と議員の懇談会 1月下旬～2月末まで5つの区で開催

“区の将来どうする？” 合併・統合？ 自治会役員のみなり手不足深刻



No. 190

令和7年3月27日(木)



1月下旬から2月末までの間に「自治会の役員のみなり手不足、行政区のあり方」をテーマに住民の皆さんと議員の懇談会を計5回行い、79名の参加がありました。議員が司会、書記、写真を担当し、多くの皆さんと意見を交わしました。村民の皆さんに特集でその模様をお伝えします。

CONTENTS

- ▶ P2：2区の懇談会の模様
- ▶ P3：10区の2の懇談会の模様
- ▶ P4：4区の懇談会の模様
- ▶ P5：18区の懇談会の模様
- ▶ P6：8区の懇談会の模様
- ▶ P7：各区の懇談会で出された意見・要望のまとめ
- ▶ P8：〈参考1〉令和2年度行政懇談会配布資料
- ▶ P9：行政懇談会で出された意見・要望のまとめ
- ▶ P10：〈参考2〉9区の1と2の合併・統合
- ▶ P11：新9区発足前後自治会長に聞く
〈参考3〉各自治会の構成
- ▶ P12：連自治会長等が語る／編集後記

2区

公民館活動等は盛り上がっているが、役員のなり手不足は深刻。自治会運営は厳しい状況。

- 日 時：1月19日(日) 19時～20時30分 ●場 所：消防コミュニティ ●参加者：7名
- テーマ：自治会の役員のなり手不足、行政区のあり方
- 担 当：【司会】安原 【書記】大久保 【写真】清水 栗屋、奥原、田中（6名）

出された意見

- 自治会役員のなり手不足で、特に自治会長を決めるのが大変だ。
- 年功序列の時はよかったが、今は息子を心配して、常会に親が参加し子どもに任せない家がある。皆で次の人を育てていくのが大切。女性の自治会長でも良い。
- 地域自治協議会と各区自治会の関係は微妙。合併すれば良いと思うけれど、合併すると参加しない人も増えてくる。
- 公民館活動は、文化祭・展示会・地域イベントなどは盛り上がっている。お祭りも盛り上がっているのだから、時代の流れを見ていくのが大事だ。残った人たちだけでも集まって、話し合い、前進すれば回っていく。
- 菅地区の地域自治協議会は菅自治会長会と役員が異なり、個々の自治会が機能していない。
- 9区の1と2が合併・統合したが、どのようにこぎ着けたのか教えてほしい。※

※9区の1と2の合併・統合はP10で経過と対応等の顛末を紹介していますので確認願います。なお、関係資料が議会事務局にありますので、ご入用の場合は問い合わせ願います。



議員の返答

- 役場から区の統合をすることは無いと思われるので統合する場合は、区で声を上げて意見を出していくしかないと思う。
- 自治会役員の役職を減らすのも解決の1つと思う。たとえば安協は区域の人数で割り振りしたら良いと思う。また、アンケートを取ってみるのも良いのではないかと。
- 自治協議会の役員が自治会長以外にも多く選出されており、役員のなり手不足に影響しているのではないかとと思われる。

感想

- 一人一人がしっかりした考えを持っていて、区や菅を何とかしたいという気持ちが強く感じられた。
- 参加した皆さんの自治意識が高く、特に役員選出が厳しい環境にあるだけに地域や村の今後を憂えての真剣さが感じられる懇談会であった。

“区民の集い”を通じ、移住・定住者を巻き込み 役員のなり手と地域の盛り上げにつなげたい。

- 日 時：1月26日(日) 15時30分～16時10分
- 場 所：青年の家
- 参加者：24名
- テーマ：自治会の役員のなり手不足、行政区のあり方
- 担 当：【司会】田中 【書記】深澤 【写真】宮下（3名）

西尾自治会長から質問

“上松町はなぜ人口が増えているのか？”

(以下、議員から説明)

1月10日の市民タイムスで木曾郡の人口が3万人を切ったとの報道があったが上松町は移住者が増えている。人口は4,000人を割っているが、2年連続、社会増で数十人が増えている。町が空き家の所有者から無償で空き家を借りて改修、移住希望者に情報発信し貸し出す取り組みと町内の会社から仕事を紹介、子育て補助金や医療費無償化等をして、20～30代の若い人を中心に効果が出てきている。木曾町は町営住宅のオンラインVR内見を行い、専担者を付ける工夫をして移住者が増えている。村も同様な取り組みを地道に行っている。10区の“区民の集い”のような付き合いを大切に、こういう集いを通じ移住・定住者が役員のなり手につながれば良い。村も移住・定住に頑張っているが更に工夫、情報発信し議会と村民全体で取り組みを後押ししていきたい。

出された意見

- 役員のなり手不足は特に女性が老々介護で役を受けない。一旦、役員数を減らしてやってみることも1つの方法と思う。自治会は女性の力が必要。
- 10区は温かい感じで会（区民の集い）をやってもらって女性が出やすくなった。もっと女性が気軽に出来る会があってもいいと思う。
- 跡取りがない家が多くなり、役員のなり手がない悪循環になっている。それで同じ人が何回も役員をやることになる。若い人につなげていくことを考えていかなければ。
- 自分がこの村に住んで良かったというアピールや住みたくなるようなVRを作ればいい。
- 移住施策はSNSの活用が必要。都会から来る人もいるのではないかな。働ける環境を作り上げ、発信することが大切だ。
- 10区の2は97世帯もある大きな区。予算をつける特区のようなことができないか。
- 峠には1万人が来ている。皆で知恵を出し、考えて10区を特区にしていければいい。

議員の返答

- 役員のなり手不足は、移住を促進し解消されるかという難しい。自治会長が男性じゃなきゃいけないのか。まず、そこではないか。以前、女性が自治会長になったことがある。父ちゃんができなきゃ、母ちゃん。そういう観点を持ってもらえばありがたい。皆、役員をやるのは嫌だと思っている。色々な部分で女性の皆さんに出てきてもらいたい。役員の見直しも大事だ。
- 特区は何をするか？だが制度はなく難しい。10区は“親父の会”で自発的活動をしており、そういう輪を広げていくことや、特に10区は村内の息子たちが家を建てているが、親父じゃない人も含め巻き込んでいき、少しずつ輪を広げて結果的に、なり手不足の解消につなげられればいい。

感想

- 自治会長からの移住・定住の質問に対する説明を行い、自治会役員のなり手不足問題と合わせて意見を交わし有意義な意見交換となった。
- 区民の集いの前段で行ったため、若干時間が足りず、もう少し意見交換ができればよかった。



(注) 前ページとも、文章中に「親父」「息子」「父ちゃん」「母ちゃん」という表現がありますが、懇談会の生の声を伝える趣旨であえて記載していますので、ご了承願います。

4区

合併は簡単な話ではない。自治会で真剣に議論するも、早急に進めず流れの中で判断を。

- 日 時：2月6日(木) 15時～16時
- 場 所：菅北部集会所
- 参加者：13名
- テーマ：自治会の役員のなり手不足、行政区のあり方
- 担 当：【司会】栗屋 【書記・写真】奥原（2名）

出された意見

- 4区の役員は年功序列、スライド制で会計を含めて最長は自治会長をやって6年の長期になる。
- 昔は生産森林組合長と自治会長のどちらかをやればいいという暗黙の了解でやってきた。でも人員がいたのでそれができてきた。
- 60代後半から役員になると70代後半近くに自治会長になる。身体的に大変だ。
- 以前から合併の話があった。しがらみがあって簡単な話ではない。自治会の中で議論してもらいたい。
- 合併は2区の方から意見があったが、4区としては今、早急に進めなくてもいいのではないか。その時がきたらで良いではないかと思う。
- 赤い羽根や緑の羽募金の金を一括して出すようにしたが、意味を知らない人もいる。強制ではないので払わない人がいてもしょうがない。



議員の返答

- 申合せで役員をやってきたので、生産森林組合、自治会、氏子総代など役をやったという扱いになったが、今はそうではなく、4区もそうになってきた。
- 高齢化率が60%の区もあるが4区は若い人がいて当面は良いが、後はわからない。
- 高齢になってからの役は体が動かず大変だ。そういうことを出してもらって、行政側と一緒に考え

てすり合わせをしていけばいい。

- 菅の区では、移住などで別荘的に家を建てた人も出てきている。今後はこの人達の考え方も取り上げていかなければならない。
- 役員、合併などは各区のしがらみや慣習・伝統、地区の事情などがあり、高齢化も進むので、その中で対応していかなければならない。

感想

- 役員問題等は今、回っていれば問題ないが、そうではないところもあり、菅全体でそこをどうするかということを検討していかなければならない。3つの区を1つにして共同できるところは共同してやっていくというのも1つの手かもしれないので、工夫してやっていかななくてはならない。有意義な意見交換だった。
- 4区は菅の中では他の区と比べ、高齢化率も低く、役員のなり手不足問題について特に問題が表面化していないが、いずれ回らなくなることは間違いなく、検討を始めてもよいと思われる。



18 区

山の管理があり、早期の合併は難しい。公民館統合から議論を始め、維持管理負担の軽減を。

- 日 時：2月8日(土) 18時30分～19時30分
- 場 所：18区公会所
- 参加者：16名
- テーマ：自治会の役員のなり手不足、行政区のあり方
- 担 当：【司会】安原 【書記】清水 【写真】田上 大久保（4名）

出された意見

- 他の地区と同様に役員構成に苦慮している。今後自治会長2巡目もあり得る中で、女性の役員も検討が必要である。
- 役職を担う区民が30人程いる。若者のために負担を減らすことを検討すべき。
- 世帯減で光熱水費の高騰や施設の老朽化の修繕など年50万円弱かかり、維持管理費の区民の負担が大きい。
- 自治会要望で申請した公民館等施設のLED化を図ることで、電気代や維持管理費の負担が軽減するので、早急に対応すべき。
- 小木曽は山の管理などがあり、すぐに行政区と一緒にすることは難しいため、公民館の統合から始め、維持管理の負担軽減を図るところから進めるべきではないか。避難所の確保など問題点をクリアする必要性もある。
- 北部公民館は老人福祉センターと同等の行政対応を望む。
- 文化祭など、子どもが減り人が集まりにくい。公民館活動を見直す時期ではないか。



- 安全協会の役員、また女性部の選任人数を減らすことで、自治会の負担が減少する。
- 安全協会が担う自転車大会やマラソン大会の使役は行政からボランティア要員を募れば対応可能と考える。
- 9区の合併の際、女性部をなくし男女関係なく集会所の清掃等行うよう改めたと聞いている。今後、女性の自治会長をはじめ役員を担う場合、各地区において女性部のあり方も検討すべきではないか。

感想

- 区民のまとまりが強く、今後の自治会のあり方について自治会長をはじめ、若い人の負担を軽減し自治会運営を行えるように一人ひとりが考えていると感じた。
- 公民館の維持管理の現状と課題を聞き、今後、行政区の合併に向けて、施設管理のあり方等について考えるきっかけとなる懇談会となった。
- 地域自治協議会の今後のあり方については議会でも検討を深めていきたい。
- 自治会の負担軽減のため、役員の人数等を検討すべきと感じた。

議員の返答

- 菅地域自治協議会は菅自治会長会と役員が異なり個々の自治会が機能していないとの意見が出された。小木曽地域自治協議会は、自治会長会が役職を担っているが、合併問題で発足した経過から自治協議会のあり方を検討すべきである。

8区

合併はお作法の違いがあり難しい。役を省く、兼務を考えたい。自治会への仕事の軽減をしてほしい。

- 日 時：2月28日(金) 18時～18時30分
- 場 所：ときわ集会所
- 参加者：19名
- テーマ：自治会の役員のなり手不足、行政区のあり方
- 担 当：【司会】宮下 【書記】田中 【写真】深澤（3名）

出された意見

- 要らないと思われる役を省いたり、兼務するとか考えていった方がよい。合併はお作法が違うので難しい。何年後は自分の番と総会で決めたらいい。
- 何でも自治会ではなく、広く集めてやればできる作業があると思う。自治会への仕事の軽減をしてほしい。
- はくさいマラソンは村を盛り上げる大事なイベントだが、村民の負担を軽減し、警備は民間委託してはどうか。
- 花壇はあれだけの規模、区毎にやる必要があるか。
- 役員の跡継ぎがない。今やっている人の後10年位先を想定して、若い世代の意見を聞いてもらいたい。
- 人口が減る中で持続可能な村を作るためには、村をはじめ、あらゆる所をスリム化しないと持続は難しい。議員定数削減も考えてほしい。
- 木曾ペインティングスの描いた絵の補修を。
- 門前への上り坂で速度を出す車が多い。通学路なので危険防止の看板等を掲出してほしい。
- 水道工事は年末に節水要請があり困った。昨年6月から半年以上続いている。難しく大変な工事なのは分かるが、早期に完了してほしい。



議員の返答

- 9区の合併では次の役員候補者をリストアップし、数期先まで予定を申し合わせた。

- はくさいマラソンの安協の協力の是非は他の区でも出た。村と自治会で仕事の洗い出しをして軽減に向けて話し合った方が良いと思う。
- 苗起こしには20人位の協力がある。花壇の規模や維持管理など人手がかかり検討が必要。
- 各区の高齢化率は7区が63%、13区は27%、平均は44%。8区は47%。高齢化率は上がる一方だが、自治会で工夫し行事に出た人が良かったと思えることがあると次の役員や理解につながるので自治会で創意工夫してほしい。
- 人口が減るにつれ役場、議会、自治会もその時の人口に見合ったスリム化は必要。持続可能な村づくりに向け役場をはじめ村全体で検討していくことが大事だと思う。
- ペインティングスの絵の補修、門前の道路の危険防止策は役場の担当へ話をするなど対応していく。
- 水圧不足など水道工事は現在、村が一生懸命、原因の究明など取り組んでいる。住民の皆さんにはご迷惑をかけている。補修の状況や今後の見通しなど、別途、明らかにされるので待ってほしい。



感想

- テーマに拘らず多方面の意見があった。行政懇談会だけでなく議員の懇談会の必要性を実感した。
- 役員のなり手不足や自治会のあり方は、当の皆さんの心配事。役員を減らすなどできるところから自治会自ら検討する時期にきていると感じた。

自治会は大切!

でも役員のなり手がいない…

懇談会は、2月末で5つの区すべてが終わり、延べ79名の参加がありました。どの区でも役員のなり手不足は深刻で、自治会の重要性を理解しつつも、役員となると二の足を踏むなどの状況がある一方、前向きに何とかしなければとの思いが感じられ、真剣に区や地区の将来を心配する声が多く聞かれました。自治会と行政の関係を考えさせられる有意義な懇談会になりました。

区や地区の将来が心配

でも何とかしなければ…

2区

▶特に自治会長を決めるのが大変。

- ▶親が子どもに任せず担い手が育たない。
- ▶役員数を減らす。
- ▶地域自治協議会は菅自治会長と役員が異なり、個々の自治会が機能していない。



10区
の2

▶老々介護等で特に女性は役員を受けられない。
▶役員数を減らす。

- ▶子がない家が増え、代替わりできず何回も役員をやるなど悪循環になっている。
- ▶移住施策はSNSを活用して発信し、働ける環境を作してほしい。

18区

▶役員構成に苦慮。女性の役員も検討が必要。

- ▶若者のために行政負担減を検討すべき。
- ▶施設の老朽化の修繕に経費がかかる。維持管理費の区民の負担が大きい。
- ▶公民館等のLED化で維持管理費の負担軽減を。
- ▶山の管理があり、すぐに行政区合併は難しい。公民館統合から始め、維持管理の負担軽減から進めるべき。
- ▶北部公民館は老人福祉センター同等の行政の対応を。

8区

▶要らないと思われる役を省く、兼務など考える。合併はお作法の違いがあり難しい。

- ▶何でも自治会ではなく、広く集めてできる作業がある。自治会への仕事の軽減をしてほしい。
- ▶はくさいマラソンは村を盛り上げる大事なイベントだが、村民の負担を軽減し、警備は民間へ委託してほしい。
- ▶役員の跡継ぎがない。今やっている人の後10年位先を想定して若い世代の意見を聞いてほしい。

4区

▶70代後半で区長になると身体的にも大変だ。

- ▶合併の話が以前からあるが、しづらみがあって簡単ではない。自治会の中で議論してもらいたい。
- ▶合併は2区の方から意見があったが、4区としては早急に進めなくてもよい。その時がきたらで良い。

自治会から村への要望 (懇談会を行った各区から出された要望をまとめました)

自治会への業務量の検証、安易な自治会頼みから脱却を

- 人口減少と高齢化により区の役員のなり手不足は、より深刻になってきている。その理由の1つとして自治会長や役員が仕事が多いと感じていることであり、その解消が必要。村から自治会にお願いをしている仕事の量や内容の検証を双方で行い、負担軽減に向けた取り組みをしてほしい。
- 村から自治会や安協等への労力奉仕の依頼など安易な自治会、団体頼みから脱却する形のイベント企画、運営を行うことが自治体の負担軽減につながることから検討してほしい。
- 合併・統合の声が以前より多く聞かれるようになってきた。合併・統合は地区や区を超え各自治会が協力して自らが検討し、実現していかなければならないが、村の積極的な理解と協力、応援を求めたい。

議員の提言

自治会は自立した組織、区や地区の将来に向けた話し合いが必要

- 一部の区で自治会役員以外に自治協役員まで担っている現状の解消、区の公共施設の維持管理費用負担のあり方を検討するなど懸案課題の解消が必要。議会でも地域自治協議会のあり方を検討していきたい。
- 区の役員数を減らすには、自治会自らが役員を最小人数にするように話し合うなどの取り組みが必要。連合自治会が主導し前例に倣うことも含め、取り組みを進める必要がある。
- 自治会はあくまで自立した地区住民の組織であり、合併・統合は村の判断ではなく自治会の意向によるもの。地区の歴史やしづらみ、財産管理の問題・特性や行政の理解、合併後の組織や役員のあり方等々多くの課題がある。近い将来の課題として区や地区を超えた話し合いを行う時期にきているのではないかと。

自治会組織のあるべき姿の確認と再編のための議論を進める

再編に関するアンケート結果

令和2年度に村がすべての区を対象に3日間にわたって行政懇談会を行い、その中で「自治会組織のあり方について」をテーマに意見交換を行っています。当日、会場で配布された説明資料で取り組みを振り返ってみましたので、自治会役員のなり手不足や自治体のあり方等の検討等の参考に願います。

(原文のまま、アンケートは一部省略)

■ 自治会組織のあり方について

少子高齢化や人口減少などにより、自治会役員のなり手不足や活動参加者の減少、昔ながらの寄り合い・付き合いなど、自治会の機能が減少し、「将来、自治会を維持するのが困難になるのではないか」と心配する声が聞かれます。

連合自治会と村では、自治会組織のあり方について、平成28年にアンケート調査を含め検討を行い、今すぐに自治会の再編成は考えにくいという結果になりました。しかし、昨年の第2次総合戦略策定委員会「地域づくり部会」や連合自治会長会、行政懇談会等において、自治会の再編は避けては通れないといった問題提起があり、今年度から連合自治会として「自治会組織のあるべき姿の確認と再編のための議論」を進めることとしました。その一環として、第2回目のアンケート調査（全自治会長21名、複数回答可）を行いましたので、その結果も参考に、今後の自治会組織のあり方についてご意見をお聞かせください。

■ 自治会運営及び再編に関するアンケート

1. 人口の動向（令和2年9月1日現在）

2,797人 前回調査3,024人（H28.9.1）

2. 自治会運営について

①自治会運営に関して困っていること

- ・ 役員の負担が大きい : 7
- ・ 役員のなり手が少ない : 17
- ・ 住民の関心が低い : 4
- ・ 活動の参加者が少ない : 6
- ・ 高齢化により活動に支障 : 12

②統合、再編が必要と考えるか

- ・ 必要と考える : 11（前回 2）
- ・ 今のところ必要ない : 11（前回 16）

※具体的な統合・再編案

- 2、3、4区 ○ 菅地区を2つの区
- 5～7区（緩やかな統合）
- 9区の1と2 ○ 18区と19区

3. 集会所等の維持管理について

①維持管理施設の有無

- ・ 有 : 17 ・ 無 : 5

②年間維持費

- ・ 7万円～37万5千円
- ・ 一世帯当たり負担額2,692円～14,423円

③維持管理等の課題（抜粋）

- ・ 屋根、壁、お宮、地蔵様の修理。外壁の塗装。
- ・ 45戸で2箇所の施設管理。年間5,000円負担。
- ・ 世帯数の減少に合わせ自治会費値上げの負担増。

4. その他意見（課題）

①自治会運営

- ・ 本来行政が行うべき事務を自治会に頼っている。
- ・ 区の役をスリム化。ごちんまりとした組織に。

②役員

- ・ 選出に困ることが多くなった。
- ・ 負担軽減と統合再編で役員数の削減を。
- ・ 独居高齢者が増え、隣組長がくることが不安。

③再編（統合）

- ・ 役員の負担軽減と役員数の削減を希望する。
- ・ 数原下町は既に個々の行事を合同で行っている。
- ・ 再編しても高齢化で時には役員をする人がいてもまた同じ問題が出る。
- ・ 自治会運営は世帯数に左右される。現状の区分けが最善かどうか定期的に見直すべき。
- ・ 世帯数は徐々に減少しているが、自治会の範囲を広げると行事への参加がしにくくなる。

④行政への要望

- ・ 村から自治会への依頼を少なくしてほしい。
- ・ 自治会長が作業員となっている。（数原地区の自治協の作業は、約半数が自治会長）
- ・ 地域内人口の減少や高齢化により役員の選出が困難となっている。

⑤その他

- ・ 自治協や自治会長の組織が二重になっている。
- ・ 30年前は4,200人の人口、現在は2,800人。同じことを行うには無理がある。

令和2年度 行政懇談会で出された意見・要望のまとめ (抜粋)

※行政懇談会は各区1、2~4、5~7、8~9-2、10、11、12~13、14~16、17~19の単位で行われました。

※■：各区の意見・要望 ①~⑩：区の表示 ■：村の応答

役員のなり手不足と業務量が悩み

- 自治会と公民館役員を年齢順で回している。5~6年後はこのやり方も続かなくなる。①
- 若い人から「下がいなければ自分がずっと役員をやるのか？」と不安の声も出ている。①
- 菅地区は役員の選出が難しい。自治会長は順番で回し、役を順に上げるようにしている。②~④
- 順番で回しても、子育て世代がやるようになり厳しい。2回目の自治会長も覚悟している。②~④
- 公民館も役員の成り手がいない。分館長と主事で任期2年を交代してやっている。①
- 役員の負担を減らす、兼務などスリム化を。①
- 自治会長が小間使いのように感じるし、自治会長の負担が大きい。現役で仕事をしている人は大変だ。①
- 56回も自治会長としての仕事があった。そんなに必要なのか検討をお願いしたい。作業も高齢化や参加人員が少なく活動は無理がある。⑧~⑨
- 自治会長の事務の見直しもしなければならない。

寄せられた村への意見・要望

- 配布物を減らし郵送などの工夫をしてほしい。①
- 自治会への配布は毎週1回を第2と第4の月2回に減らした。配布の量はあまり減ってないかもしれないが郵送などの工夫も検討したい。
- 区で選出する役員の他に村から依頼されている安協等の役員もある。村へ役の縮小について再三言っているがどうなっているのか。⑤~⑦
- まだ人口が多かった時代のまま、現在まで来ている。具体的な検討はこれからとなる。
- 30世帯しかなく、何とか皆で役員を回しているが今後、困難になる。村の方向性を早く示してほしい。⑤~⑦
- 2週間に1回の自治会文書だが、少ない時と持てない程の時とあり何とかしてほしい。
- 配布物の波がある。毎週より隔週が良い。情報が多いが、どれだけの人が見ているのか。⑫~⑬
- 安協はそもそも交通安全の啓蒙活動が目的であるはずだが、イベントの交通整理も担っており、主旨から外れている。⑭~⑮

今後の議論に向け、当時の各区の意見・要望を参考に

合併・統合が身近に。ただし財産管理など検討する課題が多い。

- 役員選考は苦労した。あと5~6年は頑張ってもらえると思うが、いずれ合併は必要だ。①
- 自治会の合併は行政側から進めていくとは考えていない。地域ごとに機運が高まってきた時に村も関わっていき、支援していきたい。
- いつかは菅も1つにしなければいけないかもしれない。藪原も厳しく従来どおりにはできない。全村的に考えないとならない。
- 行政区の合併は現実的に難しい。各地域の雰囲気や財政問題が異なる。自治会組織が小さくなくても、行政区を維持できる形が望ましい。⑤~⑦
- 行政区の合併ではなく各組を統合して役員を減らしたらどうかという話を役員会でした。⑤~⑦
- 自治会の合併や役員選出の改善はすぐには難しい。自治会と行政でよく考えてほしい。⑧~⑨
- 9区の1と2は既に合併協議に入っている。臨時総会を開催して進めていきたい。⑧~⑨
- 1番の問題は自治会組織のあり方。翁像上、下組は令和3年度から合併に向け進めており、次回総会で正式に提案する。⑩
- 地方自治の基本は自治会。だんだん高齢化が進み地域活動が厳しくなる。小木曽はまだいいが、藪原は厳しい状況。行政でやってくれと言ってもできない部分もある。ここ1年をかけて皆さんに意見を聞きながら、自治会活動のあり方について検討していきたい。
- 再編の話も出たが地域により合併できることと、できないことがある。役員は合併してもできる。可能なところからやっていけたら。⑰~⑱
- 小木曽地区の行政区を1つにできないか。林協組織を無視して行政区の合併ができるのか心配。行政区を1つにする際に関係してくる林協の組織とできる範囲でまとめていけたら。⑰~⑱
- 1人世帯が多く10年後は更に世帯の半分が1人世帯になっているのでは。考えていかないと問題が迫ってきている。行政区だけでなく、小木曽の組織で考えてほしい。⑰~⑱
- 小木曽林協は各区で管理している。半分は林協調整地で半分は管理組合で行っている。18区、後は68の管理組合(区や個人)があるが、その中でやっている。合併の仕方では財産管理をしっかりやっていかないと難しい。林協の財産管理は、今後は各自治会長を含めた中で、どのような方向でどうしていくか、問題を解決しながら合併について考えてほしい。⑰~⑱

20年以上前からの懸案課題 自治会長の“やる気”で実現！

令和4年新9区発足

2区の懇談会で「9区の1と2がどのように合併・統合にこぎ着けたのか、教えてほしい」（P2）と要望があったこと、また、令和2年度行政懇談会で9区の合併・統合の記載（P8、P9）があることから、合併・統合に至った経過など、当時の残された資料から9区の2の取り組みを振り返ってみました。

■ 20年以上前からあった話。9区の1、2自治会長同士で“やる気”を出して取り組みがスタート！

9区の1、2とも区民の減少、役員のなり手不足が顕在化、歴代自治会長の悩みだった。将来を心配した区民の皆さんの声もあり、両自治会長が“やるか！”と一念発起、取り組みを始めた。

■ 9区の2の具体的な取り組み

● 「自治会運営改善検討委員会」を発足、検討開始

9区の2では「自治会運営改善検討委員会」を作り検討を始めることを決定。委員長に自治会長、事務局長に副自治会長、委員に各隣組長4名、前自治会長の7名とした。基本的な考え方を①合併・統合だけではなく、改善に向けた区民の意見を幅広く反映する。②意見・意向把握のアンケート調査を行う。③自治会運営の課題を探り改善案を作る。④村との関係で改善点がある場合は、連合自治会を通じ要望を伝える。⑤検討結果は臨時総会に諮り、議論の上で結論を得る。として検討を進めることとなった。

● 「自治会運営改善検討委員会」を10回開催

改善を議論する項目を決め、具体的な検討を開始、全10回にわたり検討委員会を開催した。

- ◆ 検討委員会の構成 ◆ 課題の絞り込み
 - ◆ 検討方法 ◆ 検討スケジュール
 - ◆ アンケート調査
(可否、詳細検討、作成・印刷、配布、回収)
 - ◆ アンケート分析 ◆ 改善案、とりまとめ
 - ◆ 臨時総会対策
(資料作成、進行、意見への対策・事前打合せ)。
- 以上の内容で検討を積み重ねた。

◎ 9区自治会の戸数 (令和4年3月末設立総会時)

- ▶ 9区の1 (29戸)
1組9戸、2組7戸、3組8戸、4組5戸
 - ▶ 9区の2 (32戸)
1組11戸、2組9戸、3組9戸、4組3戸
- ※ 3組には小中学校教員住宅、村おこし協力隊他を含む
- ▶ 新9区の構成 61戸 8隣組

■ アンケート調査の結果：7割が合併・統合賛成

- ▶ 期間：R2.11.27～12.14 (17日間)
- ▶ 配布数：26世帯 ▶ 回収数：23世帯
- ▶ 回収率：88% ▶ 設問数：13問

【合併・統合の可否】

- ▶ 賛成：16世帯 ▶ 反対：3世帯 ▶ 無回答：4世帯

■ アンケート結果を合併・統合後の新9区の体制に反映させるよう課題を議論、整理

● 活動実態のない部や役職の廃止、巻き取りを議論

教養部、厚生部、女性部の廃止（ときわの清掃は女性の仕事ではなく男性も行うべきとの認識から）、のうさい推進委員廃止、青少年健全育成、赤十字献血委員、日赤奉仕団、防災委員長は自治会長へ巻き取り。※健康推進員は自治会長夫人（※令和7年度から廃止）。隣組は旧区組織を継続（各4組）。役職の人は選は公平性を担保しつつ旧区の役職経験は考慮しない。氏子総代は従来の社方針を踏襲する。

■ 9区の2臨時総会で合併・統合を議決、2年後の令和4年、新体制による新9区自治会が発足！

検討委員会は各種改善や見直しを含めた合併・統合案を9区の2の臨時総会に提案、原案通り賛成多数で議決した。その後、1年間の移行準備期間中に両区の合併・統合準備役員会で活動実態のない部や役職の廃止や巻き取りなどの検討・議論を行い、令和4年3月末に9区の設立総会が開催され、旧区の体制を持ち込まずに各種改善や見直しが反映された新しい体制のもと新9区自治会が発足した。

■ 移行後の状況と今後の役員のなり手の確保

移行後は新しい役員の任務範囲や花壇の手入れの当番をどうするか等、若干まごつくことがあったが、徐々に定着。また、合併・統合により役員のなり手不足が解消するかに思われたが、区民減少・高齢化は9区も例外ではなく、なり手不足で苦勞しないよう自治会長等役職候補をシミュレーション、数期先まで対象者を絞った上で申し合わせを行った。

女衆に話して了解をとりつけるなど合意形成に工夫

合併・統合前後の自治会長に当時の取り組みを振り返ってもらいました。



合併前9区の1
元自治会長
日野 文平さん

〈日野〉20年以上前から話があった。以降、時々の自治会長が試みたが、実現せずに9区の1の引き継ぎ事項だった。両区の諸先輩からの後押しもあり、気心の知れた2の柳瀬自治会長と“やるか！”と一念発起、スタートした。区の住民への十分な説明をとの役場の要請は当然ながら、両区の総会や役員会で賛意を確認し、当時の唐澤村長の協力をとりつけた。「合併検討委員会」を両区で発足させ、それぞれアンケート調査を行い意見集約をし、男衆の意見だけではなく、女性部の総会や花壇清掃の時に女衆に話をして了解をとりつけるなど工夫をした。

〈日野〉両区の役職や仕事、役職の決め方を絞り込み、コロナ休憩をはさみ、1と2の違いをどう解消するか検討した。女性部の廃止は賛否があったが、ときわの掃除が主な仕事とのことから男女共同作業が当然で廃部とした。他にも摺り合わせをしていくうちに合併への機運が徐々に高まった。

〈柳瀬〉2のアンケートで7割の賛成を受け検討委

員会を10回やり、丁寧に話を進めた。そのせいで1年余分に自治会長をやった(笑)

〈日野〉昭和30年代は1つの区。

〈柳瀬〉当時の営林署の人数が増えたので2つの区に分けた。なので駆伝は分けずに9区としてやった。

〈日野〉合併は対象の自治会長がやるか、やらないかの問題。難しいことは、とりあえず棚上げして後で検討すればいい。

〈柳瀬〉人の確保とやる気になることが1番と思う。

〈和田〉発足して軒数と配布物は増えたが自治会長のやる仕事は一緒。コロナで行事は減ったが、合併で仕事量が特に増えたわけではない。

〈柳瀬〉藪原もそのうち下・中・上でやるようになるかもしれない。

〈和田〉これからの9区も厳しくなるので2回目も覚悟している。合併でいい区の運営になるよう応援したい。



合併前9区の2
元自治会長
柳瀬 勝也さん



合併後9区
前自治会長
和田 文人さん

参考3 各自治会の構成 (令和6年度)

〈高齢化率〉全区平均 : 44.4%

最高値 : 62.5% (7区) 最低値 : 27.2% (13区)

地区・区	自治会長	連合自治会 役職	支部 役職	世帯数	隣組数	人口			65歳以上		高齢 化率		
						男性	女性	計	男	女			
吉田	1区	松原 秀幸		35	4	34	43	77	14	21	45.5%		
	菅	2区	篠原 長平		28	3	31	36	67	17	20	55.2%	
		3区	原 稔	副会長	会長	44	5	43	47	90	23	27	55.6%
		4区	唐澤 清七	会 計		42	5	56	64	120	26	28	45.0%
藪原	5区の1	島口 範孝	副会長	会長	61	5	69	73	142	22	33	38.7%	
	5区の2	神津 正史			58	6	51	60	111	16	29	40.5%	
	6区	湯川 正彦	会 長		33	4	34	47	81	15	26	50.6%	
	7区	村井 千秋			27	4	35	37	72	19	26	62.5%	
	8区	武居 繁定		会 計	42	6	51	55	106	24	26	47.2%	
	9区	奥原 重明			55	8	75	67	142	36	35	50.0%	
	10区の1	平井 明人			32	4	42	41	83	19	27	55.4%	
	10区の2	西尾 淳三			97	14	122	143	265	48	64	42.3%	
小木曽	11区	岩原 茂男			74	6	85	97	182	32	46	42.9%	
	12区	大岩 春仁		副会長	60	7	88	88	176	34	46	45.5%	
	13区	宮島 晃一			77	9	90	105	195	23	30	27.2%	
	14区	青木 一孝			44	5	49	61	110	35	21	50.9%	
	15区	柳澤 和義			35	4	47	63	110	19	29	43.6%	
	16区	小松 美秋	副会長	会 長	35	5	48	63	111	23	28	45.9%	
	17区	寺平 暁夫		会 計	25	4	48	51	99	14	21	35.4%	
	18区	横山 一行	会計幹事		28	3	32	50	82	11	25	43.9%	
	19区	藤原 節男			26	3	37	42	79	15	17	40.5%	
計				958	114	1,167	1,333	2,500	485	625	44.4%		

※1 世帯数、隣組数は役場の自治会文書配布数より

※2 人口は令和7年2月1日現在の住民基本台帳より(サニーヒルきそは含まず)

※3 高齢化率(%) = 区の65歳以上の人口 ÷ 区の総人口 × 100

(注) 文章中に「男衆」「女衆」という表現がありますが、生の声を伝える趣旨であって記載していただきますので、ご了承ください。

自治会役員のなり手不足・自治会のあり方に大きな不安



行事に参加して良かったという 達成感が次の役員につながる

住民の皆さんと議員の懇談会は、自治会の役員のなり手不足と今後の区や地区・自治会の運営を心配する声が多く聞かれました。悩み多き自治会活動をけん引する木祖村連合自治会長（6区自治会長）の湯川正彦さんと移住定住者で10区の2自治会長の西尾淳三さんに思いを語っていただきました。

どこの区も役員のなり手不足は深刻。 区と自治会の将来を自分のこととして考えてほしい！



湯川正彦さん
木祖村連合自治会長
(6区自治会長)
温かな性格で多くの皆さんに親しまれています。

自治会活動は地域住民と村の行政のパイプ役として大切な活動ですが、最近では人口減少と少子高齢化により、役員をできる人が限られてきて、なり手不足は深刻になってきています。区民には自治会活動の重要性を理解していただき、各区や村開催の行事を工夫して行い、役員や参加した住民がやって良かったと思う達成感が得られれば次の役員につながると思います。

また、役員数を減らすことも大変で、各自治会運営ができる人員が必要なので自治会で十分話し合いを持つ必要があります。役員になりたくないとの意見や無関心は考えものです。少なくとも全員が役員つもりで自治会活動に参加、理解していただけるよう、常に声をかけ、これから先の申合せを行い、苦労しないよう進めていける自治会でありたいと思います。

移住・定住して気がついた地域活性化の大切さ。 地道に地域を歩くことが地域活性化のカギ。

夏山町、原町は広々とした解放感溢れる明るい地域です。移住を希望する人に「とても素敵な地域です」と語りたい。その地域の自治会長として2年、経験も見識もない自分でしたが、努力して皆さんの協力で任期を務めました。移住して10年余ですが、まだまだ分からないことが多く地域の皆さんに応えることができなかつたと反省しています。この2年間で感じることは、自治会を構成する原町町会、夏山町会のそれぞれがしっかりと機能し充実していることです。その上に自治会があり、2つの町会をリードして自治会独自の催しを展開していく難しさを感じました。その上で、地域活動に目を向け参加していただくには身近なところから皆さんの声をよく聞くこと、こちらから挨拶、一声かけていくことが大切です。先輩の自治会長経験者からも「地域の中を歩くことが大切」とアドバイスを受けました。そうした地に足をつけた活動の上で皆さんが地域活動に参加していただけると思っています。



西尾淳三さん
10区の2自治会長。
名古屋から木祖村に移住・定住。“源流焼き”の番頭さんとして親しまれています。

編集後記

感想をお寄せ下さい

特集「住民と議員の懇談会」はいかがでしたでしょうか？懇談会は以前より行っていましたがこのような形で村民の皆さんにお伝えしたことがなかったかと思います。今回は懇談会を行っただけでなく、議事録を村へ共有し住民の思いを伝え、議員が住民の皆さんの意見を直接聞き、意見を交わし議員活動に活かしていくとともに、各区の模様を村民の皆さんに広くお伝えすることにしました。今後も懇談会を行った際には、その模様をお伝えしていきたいと思えます。より多くの区から懇談会の要請をいただき、議会のこの取り組みが充実したものになるよう、多くの村民の皆さんから感想・意見・要望をお寄せいただければ幸いです。(宮下)